

---

## 同居家族の人数は在宅血液透析療法 (HHD) 選択の障害となるか？

---

医療法人衆和会 長崎腎病院

○中山美季 宮崎千秋 堀幸一郎 船越 哲

### 【目的】

HHD の更なる推進へ向け、選択する患者の傾向を検討する。

### 【対象・方法】

2014 年以降 HHD 適応となる患者と家族に対し、医師同席のもと情報提供を行った維持透析患者を対象とした。HHD を選択した患者につき、ロジスティック分析で性別・年齢・透析歴・腹膜透析歴・DMの有無・介助者(同居家族の人数)・就業の有無・居宅の形態・通院距離を解析した。

### 【結果】

8 年間で 52 名に情報提供を行い、29 名が HHD を選択した。選択理由としては、ロジスティック分析の結果、就業の有無がオッズ比 3.99 ( $P < 0.05$ ) であり、就業継続のために希望する患者が多かった。一方、介助者(同居家族の人数)がオッズ比 0.37 ( $P < 0.01$ ) となり、同居家族が多いほど自宅での治療を選択しない結果となった。

### 【考察】

今回の分析では、同居家族の数多いほどが HHD を躊躇する可能性があり、家庭内に治療を持ち込むことを遠慮する国民性も推測された。現実には家族が多いほど介助者の負担は減る可能性があるため、今後はより実践的な説明法を考案したい。